

第2期滋賀県スポーツ推進計画

概要版



滋賀県

第 2 期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成 25 年（2013 年）3月に策定した「滋賀県スポーツ推進計画」は、平成 29 年度（2017 年度）で計画の5か年が終了することから、国や本県におけるスポーツを取り巻く状況の変化を踏まえ、新たに「第2期滋賀県スポーツ推進計画」を策定します。

●県民の心身の健康の保持増進を通じて健康寿命の延伸を図り、豊かで潤いのある県民生活の形成および活力ある地域社会の実現に寄与するため、滋賀のスポーツ推進に関する施策の基本的方向と具体的方策を明らかにしています。

●平成 27 年（2015 年）12 月に施行された「滋賀県スポーツ推進条例」第8条に基づく計画です。さらに、平成 29 年（2017 年）3月に策定された国の「第2期スポーツ基本計画」を踏まえた計画です。

目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、滋賀県民であることに誇りを感じて、

幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現

～スポーツで滋賀を元気に！滋賀の未来を創る！～

基本方針

- 1 スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！
- 2 スポーツの力で「元気な地域」を創る！
- 3 スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

計画の期間

平成 30 年度（2018 年度）から 5 年間の計画です。

スポーツ推進の具体的展開



スポーツで滋賀を元気に！

滋賀の未来を創る！

1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実

政策目標

年齢や性別、障害の有無を問わず、すべての県民が「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツを楽しめるよう、スポーツ活動や学校体育の充実を目指します。

指標

	現状（H28）	目標（H34）
成人（男・女）の週1回以上のスポーツ実施率	男性 35.6% 女性 36.8%	男女ともに 65%以上
子ども（男・女）の1週間の運動・スポーツ実施時間（※土日を含み、平日の授業を除く） 【小学5年生】	男子：590.7分 女子：347.2分 （全国男子：602.9分） （全国女子：370.3分）	男子：625分 女子：382分 ※1日5分増を目標
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.1% （H29）	65%以上



県民総スポーツの祭典

上：ゲートボール
右：ユニカール



展開方策

（1）県民総スポーツの機会づくりの推進

- 「する」「みる」「支える」スポーツ普及に向けた機会づくりと普及促進
- スポーツボランティア活動の充実
- スポーツ情報提供の拡大

（5）障害のある人の参加機会の拡大

- 地域における参加機会づくり
- 指導者の養成
- 障害者スポーツの啓発

（2）幼児期からの運動(遊び)・スポーツ活動の充実

- 幼児期の運動遊びの充実
- 体力向上に向けた検証改善
- 幼児期における運動の質・量の充実

（6）女性の参加機会の拡大

- 仲間や親子で参加できる機会づくり
- 参加意識の向上
- 女性の指導者等、人材の養成

（3）小・中学校における体育・保健体育の授業の充実

- 授業内容の充実
- 指導力の向上
- 外部指導者の参画
- 望ましい生活習慣の定着

（7）中高年の運動習慣定着化の推進

- 日常生活にとけ込む運動の普及
- 気軽に取り込める運動プログラム等の開発
- 体験機会の提供

（4）中学・高校における運動部活動の活性化

- 各学校の特色を活かした取組の推進
- 指導者の育成・確保
- 柔軟な運営体制の推進
- 安全体制の充実



小学校体育デジタル教材
「げんきな湖っ子」DVDシリーズ



各小学校「健やかタイム」の時間



スペシャルスポーツカーニバル
- 86 -

2 スポーツの持つ多様な価値の共有

政策目標

スポーツから得られる勇気や社会の絆、さらには共生社会、健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化等につづくスポーツの持つ多様な価値の発信と共有を目指します。

指標

	現状（H28）	目標（H34）
しがスポーツ大使の就任数	26 者	50 者以上
アスリートを採用した県内企業数	32 社	45 社以上
スポーツボランティア登録者数 （本県ボランティア登録システム利用）	334 人	2,000 人以上



しがスポーツ大使による発信



スポーツボランティア

展開方策

（1）スポーツの持つ多様な価値の発信

- しがスポーツ大使による発信やスポーツイベント等におけるアスリートの活躍する姿の発信

（2）トップアスリートとの交流機会の創出

- 活躍するトップアスリートの広報
- スポーツを通じたアスリート支援による企業価値の向上

（3）スポーツイベント等におけるボランティア活動の応援・促進

- ボランティア活動ができる機会の提供
- 企業がスポーツボランティアを養成する制度構築の促進

3 スポーツ施設・環境の充実

政策目標

県民が気軽にスポーツに親しむことができるよう「する」、「みる」、「支える（育てる）」スポーツ環境の充実を図ります。

指標

	現状（H28）	目標（H34）
総合型地域スポーツクラブで指導する有資格スポーツ指導者数	267 人	370 人以上
県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409 人 （H26）	730 万人以上



（仮称）彦根総合運動公園第1種陸上競技場建築基本設計パース図

展開方策

（1）地域スポーツクラブの育成

- 総合型クラブの育成
- 滋賀県広域スポーツセンターを中心とした支援の充実
- 地域づくり活動の推進

（2）スポーツ少年団の育成

- アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）の普及促進
- 指導者の資質の向上

（3）公共スポーツ施設等の活用・充実

- 学校体育施設の効果的・効率的活用
- 県立スポーツ施設の充実・確保、安全性の確保

（4）琵琶湖などの自然を活かしたスポーツの推進

- 滋賀の豊かな自然環境を活用したスポーツの推進
- 琵琶湖を舞台とした湖上スポーツの推進

4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

政策目標

大学、企業、地域、スポーツ団体等のさまざまな団体が、スポーツを通じて主体的に連携・協働することにより地域の活性化を目指します。

指標

	現状（H28）	目標（H34）
民間団体等の実施するスポーツイベントへの県の後援件数	155件	200件以上
スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	1,014万人（H27）	1,200万人以上
滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人（2017シーズン）	10万人以上



朝日レガッタ



びわ湖レイクサイドマラソン

展開方策

（1）地域とスポーツ団体との連携・協働の推進

- 子どもの運動・スポーツ活動の推進
- 障害者スポーツ関係団体との連携、協働
- 健康づくり・交流機会の拡充

（2）大学・企業等とのスポーツ団体との連携・協働の推進

- 指導者の育成
- 体力向上に向けた検証、改善サイクルの確立
- 競技力向上のための連携

（3）スポーツイベント、トップアスリート等を活かした地域の活性化

- 全国規模のスポーツイベントの開催による地域の活性化
- トップスポーツの地域での交流推進
- スポーツイベントを活用したスポーツツーリズムの検討

（4）スポーツの成長産業化

- 滋賀のPR活動と観光誘客に向けた発信
- 大学等と連携したビジネスモデルの検討
- スポーツを通じた海外との交流促進

5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大

政策目標

「選手の育成・強化」「指導体制の充実」「強化拠点の構築・環境整備」の取組を推進することにより、競技力の向上と競技者の拡大を図ります。

指標

	現状（H29）	目標（H34）
国体総合順位	39位	8位以内
県障害者スポーツ大会の参加者数	773人	1,000人以上

展開方策

（1）選手の育成・強化

- ジュニア選手の発掘・育成・強化
- 成年選手の育成・強化・確保
- 東京オリンピック・パラリンピック候補選手の活動支援
- 女性アスリートの育成・強化
- 障害者スポーツの普及、選手の発掘・育成・強化

（2）指導体制の充実

- 指導者の確保
- 指導者の養成・資質向上
- 組織的な競技力向上の推進

（3）強化拠点の構築・環境の整備

- 強化拠点の構築
- 施設の整備・競技用具の充実
- 医科学サポート体制の充実



平成 29 年度 愛媛国体開会式



次世代アスリート発掘育成プロジェクト 滋賀レイキッズ



国体「陸上競技」



医科学コンディショニング講習会

6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

政策目標

国体・全国障害者スポーツ大会等の開催を契機として、地域の特性を活かした滋賀らしいレガシーの創出を目指します。

指標

	現状 (H28)	目標 (H34)
オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を始めた市町数	3 市	6 市町以上
スポーツボランティア登録者数 (本県ボランティア登録システム利用) ※再掲	334 人	2,000 人以上
成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率 ※再掲	男性 35.6% 女性 36.8%	男女ともに 65%以上

展開方策

(1) シンボルスポーツの創出

- 市町と連携したシンボルスポーツの創出

(2) 大会運営等のノウハウの継承

- 大会運営等のノウハウ継承による継続してスポーツに親しめるイベントの開催

(3) スポーツボランティア活動の取組

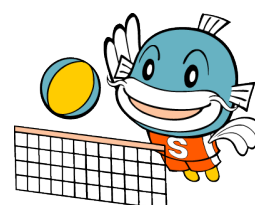
- ボランティア活動の場の提供、ボランティア制度の仕組みやボランティア体験の継承



米原市ホッケースクール



ホストタウン交流事業 (トルコ)



施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項

第1 県民自らの参加の推進

スポーツ基本法では「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利である」とされており、第2期スポーツ基本計画では、「一億総スポーツ社会」の実現を掲げています。

滋賀県スポーツ推進条例第4条では、県民の役割として、「スポーツに対する関心および理解を深めるとともに、日常生活においてスポーツに親しみ、楽しむことにより、心身の健康の保持増進および体力の向上に努めるものとする。」としています。

県民一人ひとりが、健康で明るくいきいきと生活するために、日常生活の中で「する」「みる」「支える」などさまざまな関わりにおいて、自ら進んでスポーツに親しむことができるようにします。

第2 多様な主体の連携・協働による推進

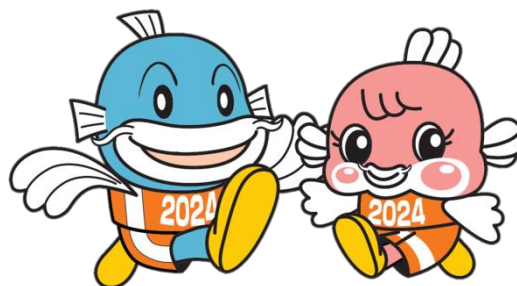
滋賀県スポーツ推進条例第7条では、「県、県民、市町、事業者、大学およびスポーツ団体等は、スポーツの推進を図るため、相互に連携を図りながら協働するように努める」こととしており、スポーツ関係団体や関係者は、それぞれの役割を十分理解し、互いに連携・協働しながら、「スポーツで滋賀を元気にする」取組を推進します。

第3 本県の国体・全国障害者スポーツ大会に向けた着実な準備

当計画期間中に開催されるラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021 関西と、3年連続のビッグイベントを平成36年(2024年)に本県で開催する国体・全国障害者スポーツ大会の成功につなげていけるよう知見や成功体験を活かし着実な準備を行います。

第4 計画の進捗状況の検証

滋賀県スポーツ推進条例第9条に基づき、毎年度、スポーツ推進計画に基づく施策に係る実施状況を議会に報告し、公表するとともに、スポーツ計画の進捗状況の把握にあたり、指標により評価・検証を行い、毎年、取組の状況、評価、課題の把握に努め、その結果、変更が必要なものについては、計画期間中においても成果指標や具体的施策を見直すものとします。



すまいる・あくしょん

すまいる・あくしょん⑦

オンラインを
活かすための
環境を整備する

すまいる・あくしょん①

正しい情報を
選んで伝える

すまいる・あくしょん②

子どもの声を
聞いて一緒に考える

感染症を
正しく知って
行動しよう

オンラインを
上手に活かそう

今の気持ちを
伝えよう

すまいる・あくしょん⑥

文化・芸術・自然・社会に
触れる体験を増やす

わくわく感動する
気持ちをもとう

すまいる・あくしょん③

心と身体の
健康を支え
思いやりを育む

自分も
周りの人も
大切に

身体を動かして
しっかり遊ぼう

頼れる
人や場所を
見つけよう

すまいる・あくしょん⑤

のびのびと
遊び、育つための
環境を守る

すまいる・あくしょん④

人とのつながりや
喜びを感じられる
居場所をつくる



滋賀県社会教育委員会議提言【概要版】

— これからの地域を支える人材育成・確保のための社会教育・生涯学習のあり方 —

令和4年3月

1. 審議の背景

(1) 滋賀県の社会教育・生涯学習を取り巻く現状

- 人口減少や超高齢化の状況において、限られた人と財だけでは、地域のコミュニティ活動の維持や活性化は困難な状況。
- 公民館設置数、社会教育主事の配置数が大幅に減少する中、地域ニーズに即した社会教育の在り方、連携・ネットワークの醸成が必要である。

(2) 第3期滋賀県教育振興基本計画および滋賀県基本構想の実現

- 人生100年時代を見据え、多様な人と交わりながら、生涯を通じて学び続け、学びの成果を地域に生かしていくことで、人と人、人と地域がつながりを深め、地域の活性化を図っていく。

2. 審議テーマ

「これからの地域を支える人材育成・確保のための社会教育・生涯学習のあり方」

3. 審議の論点

(1) これからの生涯学習・社会教育の役割

- [論点]
- ・命を守る生涯学習・社会教育
 - ・社会教育を基盤としたつながりづくり
 - ・コロナ禍での社会教育

- [方向性]
- ・マルチステージな生き方に対応した多様な学びの機会
 - ・デジタル活用共生社会に向けた情報弱者への支援
 - ・学びの場を通じた住民相互のつながりづくり
 - ・ICT活用による学びの継続と新たな可能性

(2) 人材育成・確保について

- [論点]
- ・社会教育主事やコーディネーター人材の育成
 - ・子ども・若者の地域参画
 - ・世代の切れ目のないつながり

- [方向性]
- ・対話の場をつくるコーディネーター人材が必要
 - ・子どもや若者が主体性を育む自己決定する機会の確保
 - ・大人と子どもや若者がともに地域課題に取り組む必要

(3) 学びを通じた地域づくり

- [論点]
- ・地域の課題解決学習の実践
 - ・社会的孤立を防ぐつながり
 - ・社会教育の可能性の発信

- [方向性]
- ・課題を発見し協働して解決していく学びの機会を設定
 - ・世代ごとの役割や出番のある多世代交流が重要
 - ・SNS等を活用し個人に届ける工夫が必要

(4) 多様なつながりと学校と地域の連携・協働

- [論点]
- ・オンラインによる新たなつながり
 - ・社会に開かれた教育課程の実現

- [方向性]
- ・多様な人とのつながりを活かす
 - ・学校と地域・団体・企業等との連携・協働

4. 提言

【提言1】 学びを支えるコーディネーターの育成

環境・福祉・人権・共生社会など現代社会が抱える諸課題を解決していくためには、地域住民の学習の展開とその支援（コーディネート）が不可欠。そのため、生涯学習に関する指導・助言やコーディネート等を行う社会教育主事※1（社会教育士※2）の養成とともに、地域においても、住民同士の学びあいをコーディネートする人材の育成が必要である。



○施策例

- ・社会教育関係職員の研修会の充実
- ・社会教育主事・社会教育士の養成・育成の促進
- ・社会教育主事の配置による他分野連携
- ・コーディネーター・ファシリテーター育成

○実践事例

- ・県立安曇川高等学校の取組
- ・日野町立南比都佐公民館の取組
- ・野洲市立北野小学校の取組

【提言2】 地域の課題解決につながる社会教育

学びや活動への住民の主体的な参画には、楽しさや体験をベースにした学びあいの活動が大切であり、地域の課題解決には、地域住民が将来像や願いを共有し、当事者意識をもって、地域づくりの実践につなげていくことが重要。こうした地域の課題解決につながる社会教育を推進する。



○施策例

- ・地域の資源を活用した学びを活かす取組推進
- ・子どもや若者が地域活動に主体的に参加できる機会
- ・地域探求をテーマにした学習プログラムを開発
- ・地域づくりの情報提供とネットワーク構築

○実践事例

- ・滋賀県青年団の取組
- ・竜王町ひだまり学舎の取組
- ・地域における高校生の取組

【提言3】 多様な主体との連携・協働による地域づくり

学びを通じて地域課題や社会課題の解決に取り組むことは、教育委員会だけで完結するものではなく、様々な関係機関とつながりを持ちながら連携・協働し、一体となって取り組むことが必要。関係者間をつないで、必要な学習の場について調整を行ったりする役割が重要である。



○施策例

- ・社会教育の取組を見える化した情報発信
- ・コミュニティ・スクールを活かした取組の充実
- ・高校・自治体・企業等の連携による地域探求
- ・学校教育と社会教育の連携による地域づくりの推進

○実践事例

- ・長浜市立余呉小中学校の取組
- ・子育て応援カフェ LOCO の取組
- ・高島市社会教育課・市民協働課の取組

※1 社会教育主事は、都道府県及び市町村教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的助言・指導に当たる役割を担う。

※2 社会教育士は、社会教育主事講習や社会教育主事養成課程の学習成果が広く社会における教育活動に生かされるよう、令和2年4月に制度化された称号。

- 新高専を軸に、人材育成→地域への技術実装→技術への関心・憧れ、という好循環の創出に挑む
- 情報技術*各産業分野に通ずる学びに加え、多様な学びの機会を提供し、実践力も育む
- 1学科4コース制で、1年次は混成学級、2年次からコース選択という学びの体系

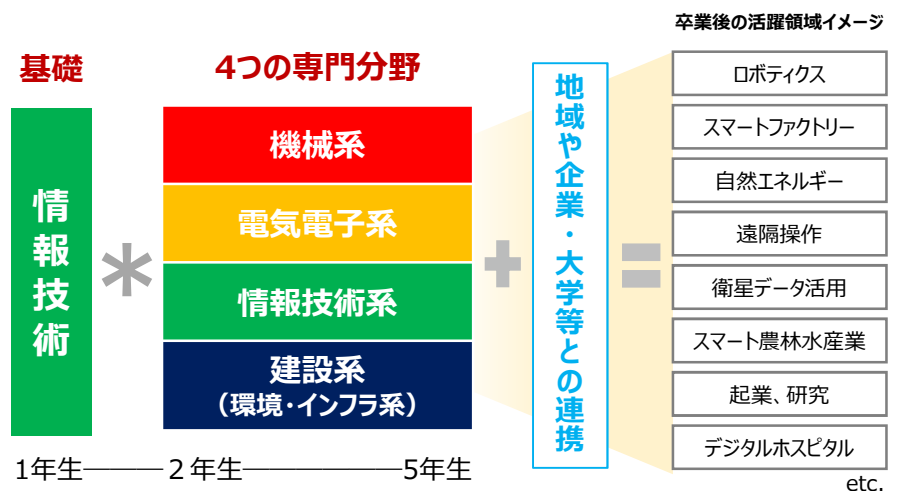
◆新高専の設置意図

目指す学校像

すべての人と地球を支え続ける技術を磨く学校



◆学びの専門分野（工学の実装領域はn次産業化）



◆学びの方向性

<p>情報技術から 学びの分野を考えてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データサイエンス データに基づく課題発見力 ● プログラミング 考え方、アルゴリズム、最適化 ● 価値の創造 AIによる自動化、データ活用 	<p>各産業分野 に通じる学び、スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ものづくり分野 ロボティクス、IoTなど ● インフラを支える分野 グリーンインフラ、防災技術等 ● その他の分野 他の教育機関等との連携 	<p>滋賀・びわ湖 という地域ならではの学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人と自然に寄り添う技術 Society5.0の先の社会 ● 環境へのこだわり CO2ネットゼロをかなえる技術 ● 進取の気性 学び続ける姿勢、行動意欲
--	--	---

学びの方向性

- 「情報技術」を柱に、課題を発見し、価値を生み出す力を養成
- キャリアを考えた育成コースで、多様かつ柔軟な選択肢を提供
- 人と自然に寄り添い、課題の解決に挑む技術者を育成

◆学びの拡がり

<p>課外授業、留学等</p> <p>5年という時間を活かす経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種コンテストへの挑戦 ● 海外留学、文化交流 ● 部活動、地域活動 	<p>インターンシップ等</p> <p>地域・社会へのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域課題を実体験 ● 地元企業と出会う機会 ● より現実に即した実践
<p>卒業研究</p> <p>技術やスキルの確立・応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ものづくり基礎力の確立 ● 起業へのチャレンジ ● 就職、進学に向けた研究 	<p>リベラルアーツ</p> <p>広く深くものを考える力、教養</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢に即した文系科目 ● コミュニケーション力 ● 世界的課題への眼差し

- 入学定員は120名、公立大学法人滋賀県立大学が運営
- 高専に技術者交流・育成のハブ機能を備えることで、地域とともに高専自体もアップデート
- 設置場所は、用地の広さや周辺環境、連携先等を勘案して来夏に決定、令和9年春の開校を目指す

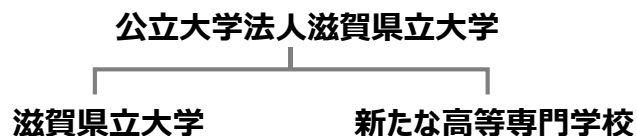
◆学校規模について

入学定員120名（3学級）、学校全体で600名
（志願倍率2倍程度を想定）

教員数：約50名、職員数（事務・技術）：約40名

◆設置主体について

「公立大学法人滋賀県立大学」とする



◆経費のイメージおよび場所の要件(案)

＜施設整備費＞ （寮を除く） 単位：百万円

A：施設整備費	7,200
B：設計監理費	360
C：その他経費	2,440
合計（A+B+C）	10,000

＜運営費＞ 単位：百万円

A：収入	200
B：支出	900
収支差額（A-B）	700

※全国類似高専における平均値から算出

＜場所の要件＞ 比較項目例

校地要件	土地の規模 土地の法令上の要件 土地の安全性
周辺要件	学びの場所としての魅力 周辺の理解 教育上のふさわしさ
連携要件	他の教育機関、産業界、 地域との連携
コスト要件	整備・運営費の低減
交通要件	通学の容易性

◆高専を技術者交流・育成のハブに

例えば・・・

- 企業の学びへの参画、大学連携講座等
- 技術系のリカレント教育
- 企業との共同研究、課題解決コンテストなど
- 技術系ならではの図書館デザイン
- 小中学生への「ものづくり体験」

…etc.

➔ 技術をテーマとした「広場」をつくることで、
地域はもちろん、高専自体もアップデート



◆今後のスケジュール（PFI手法を導入）



令和4年(2022年)8月23日
8月定例教育委員会
報告事項

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

令和4年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

1 実施概要

(1) 実施日 令和4年4月19日(火)

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 実施教科

①教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

※ 知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法の改善等に資するよう、知識と活用を一体的に問われた。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査 (Webによる回答)

※ 学校質問紙において、令和3年度の新型コロナウイルス感染症への対応に関する項目として、臨時休業や学校教育活動の実施状況について問われた。

(4) 実施校数 悉皆調査

	調査対象 学校数	調査実施校	
		19日に調査を 実施した学校数	19日以降に調査を 実施した学校数
市町立小学校	217	216	1
義務教育学校(前期課程)	2	2	0
特別支援学校(小学部)	2	1	0
市町立中学校	93	92	1
義務教育学校(後期課程)	2	2	0
県立中学校	3	3	0
特別支援学校(中学部)	3	2	0
公立学校計	322	320	

2 教科に関する調査の結果概要(公立)

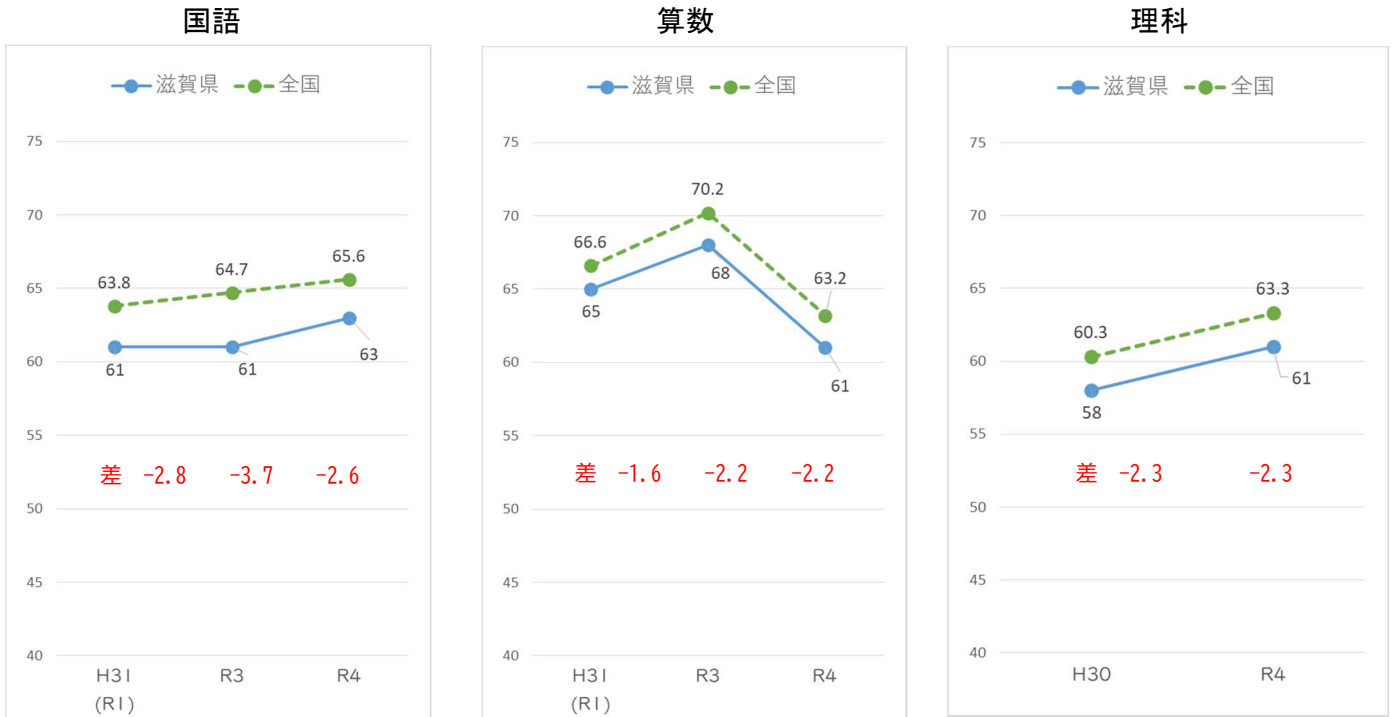
○各教科における本県と全国の平均正答数と平均正答率(%)

	教科	平均正答数/設問数		全国との差	平均正答率		全国との差
		本県	全国		本県	全国	
小学校	国語	本県	8.9/14	-0.3	本県	63	-2.6
		全国	9.2/14		全国	65.6	
	算数	本県	9.7/16	-0.4	本県	61	-2.2
		全国	10.1/16		全国	63.2	
	理科	本県	10.3/17	-0.5	本県	61	-2.3
		全国	10.8/17		全国	63.3	
中学校	国語	本県	9.5/14	-0.2	本県	68	-1.0
		全国	9.7/14		全国	69.0	
	数学	本県	7.2/14	0.0	本県	51	-0.4
		全国	7.2/14		全国	51.4	
	理科	本県	10.1/21	-0.3	本県	48	-1.3
		全国	10.4/21		全国	49.3	

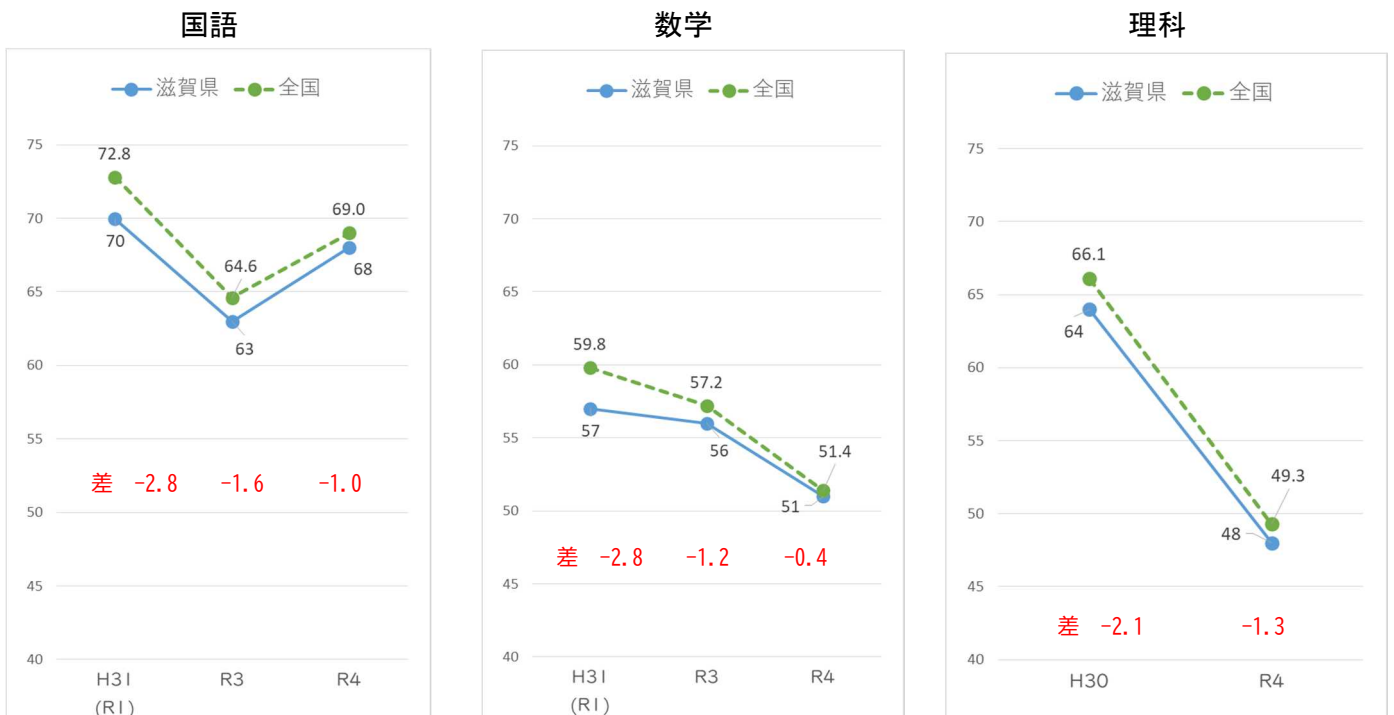
○ 平成 31 年度から令和 4 年度全国学力・学習状況調査の平均正答率の推移

平成 31 年度から、主として「知識」に関する問題（A問題）と、主として「活用」に関する問題（B問題）という区分を見直し、知識・活用が一体的に出題された。理科の調査については、前回は平成 30 年度に実施された。令和 2 年度の調査は、新型コロナウイルス感染症の学校教育への影響等を考慮し、実施されなかった。

【小学校】＜平均正答率の経年変化＞



【中学校】＜平均正答率の経年変化＞



【国語】

小学校

◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…

- 「話すこと・聞くこと」における「聞くこと」の設問の平均正答率は83.9%であり、全国平均とほぼ同等であった。
 - ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができた。
- 「書くこと」における記述式の問題では、全国の平均正答率を3.5%下回った。
 - ・伝え合ったことを基に、自分の文章のよいところをまとめて書くことに課題が見られた。
- 漢字の書き取りの設問において、全国の平均正答率を最大で4.9%下回った。
 - ・漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の関連でみると…

「話すこと・聞くこと」の設問では、話し合う場面において、友達が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができていた。

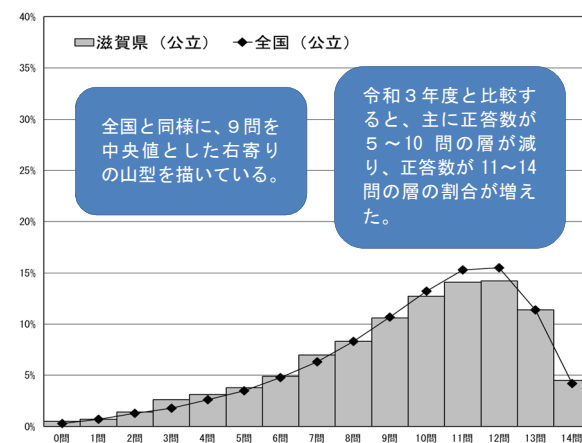
「書くこと」の設問では、友だちと伝え合った感想や意見を基に、自分の文章のよさに気づき、文章で表現することに課題が見られた。

中学校

◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…

- 「書くこと」における平均正答率は47.6%であり、全国平均を1.1%上回った。
 - ・自分の考えが伝わる文章になるように、資料の一部から必要な情報を引用して、根拠を明確にして書くことができた。
- 「我が国の言語文化に関する事項」における平均正答率は67.5%であり、全国平均を2.7%下回った。
 - ・「書写」において、行書の特徴（「筆順の変化」や「点画の省略」など）の理解に課題が見られた。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の関連でみると…

「書くこと」の設問では、資料から目的に応じて必要な情報を取り出し、引用することができていた。

「話すこと・聞くこと」の設問では、友達との交流の中から得た助言を基に、深まった自分の考えを記述によって表現することに課題が見られた。

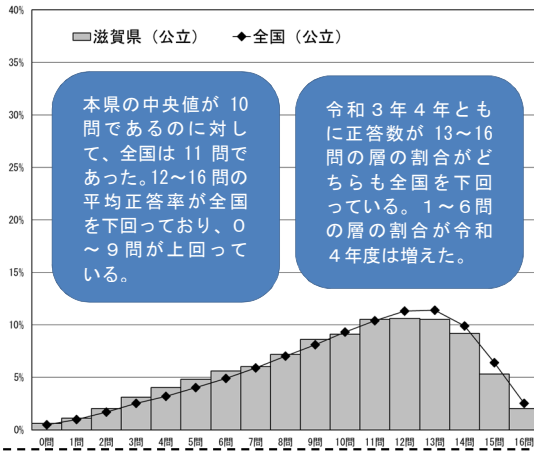
【算数・数学】

小学校

◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…

- 「数と計算」と「図形」の領域では、全国平均をどちらも2.3%下回った。昨年度と比較すると、それぞれ1.1、1.4%の改善が見られた。
 - ・除法を用いることで答えが導きだせる理由を説明することや、長方形の性質について理解している。
- 「変化と関係」の領域では、全国平均を3.0%下回った。
 - ・飲み物の量が変わっても果汁の割合は変わらないことへの理解に課題が見られた。
 - ・比例の関係にあることを用いて、答えの求め方を式や言葉で説明することについて課題が見られた。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の関連で見ると…

「データの活用」の領域において、目的に応じてグラフを選択することはできたが、必要な情報を読み取ることに課題が見られた。

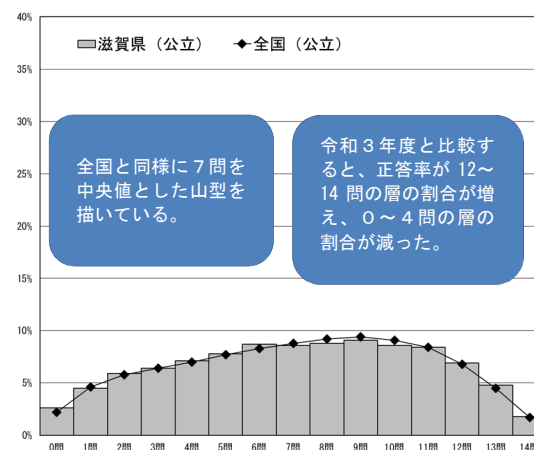
「変化と関係」の領域において、伴って変わる二つの数量の間にある比例の関係を用いて、未知の数量を求めることはできたが、他者が考えた式や記述をもとに、求め方を式や言葉で説明することに課題が見られた。

中学校

◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…

- 「数と式」の領域では、全国平均を0.9%上回った。また「図形」の領域では、全国との差はなかった。
 - ・自然数を素数の積で表すことができるかをみる設問で9.5%上回った。また、反例の意味を理解しているかをみる設問で0.8%上回った。
- 「関数」と「データの活用」の領域では、全国平均をそれぞれ1.2、1.8%下回った。
 - ・一次関数の変化の割合について意味の理解に課題が見られた。
 - ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに課題が見られた。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の関連で見ると…

「データの活用」の領域（コマ回し）の設問において、データの傾向を読み取ってはいるが、判断の根拠として適切なものを取り出すことに課題が見られた。

「数と式」の領域（2つの偶数の和）の設問において、目的に応じて式を変形し、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られた。

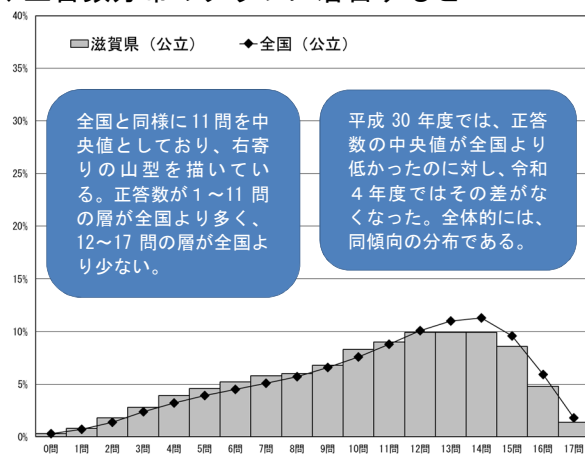
【理科】

小学校

◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…

- 「生命」の領域の平均正答率は72.9%であり、全国平均を2.1%下回った。
 - ・生物の観察から疑問をもち、予想や仮説を基に解決の方法を発想することができた。
 - ・与えられた表を基に、生物の特徴から分類することができた。
- 「粒子」と「地球」の領域では、全国平均をそれぞれ3.5%、3.0%下回った。
 - ・実験器具の名称を正しく覚え書くことや、科学的な言葉や概念を日常生活に関連付けながら理解することに課題が見られた。
 - ・実験結果の分析から自分の考えをもち、その考えを記述することに課題が見られた。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の関連で見ると…

提示された資料を、複数の視点で分析して解釈する設問において、資料から必要な情報を読み取り、差異点や共通点を見いだして、分析、整理することができていた。

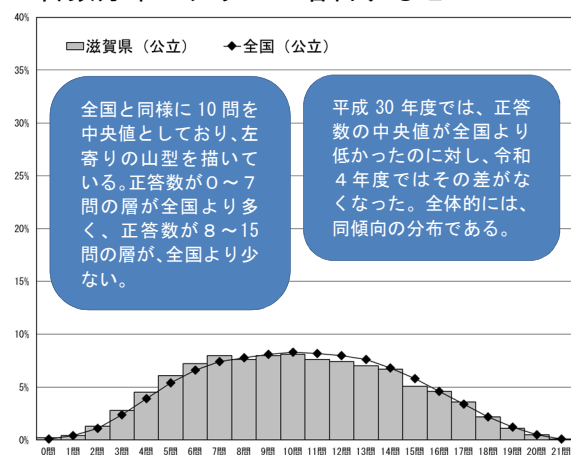
自然の事物・現象から得た情報を、他者とのやりとりを通して分析、整理し、自分の考えをまとめ、記述することに課題が見られた。

中学校

◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…

- 「粒子」の領域の平均正答率は50.2%であり、全国平均とほぼ同等であった。
 - ・分子をモデルで表した図を基に、化学反応式について理解することができた。
- 記述式の問題における平均正答率は全国平均を、3.1%下回った。
 - ・物体に働く重力とつり合う力について説明することに課題が見られた。
 - ・水素を燃料として使うしくみに関して、「粒子」と「エネルギー」の領域の知識を関連付け、解釈することに課題が見られた。
 - ・実験結果の考察の妥当性を高めるために、必要な再実験を考えることに課題が見られた。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の関連で見ると…

図や表、モデルなどを基に、情報を正しく読み取り、観察、実験の内容について分析・整理することができていた。

記述形式の設問において、既習の知識や概念を用いて、未知の事物・現象について筋道を立てて考え、説明することに課題が見られた。

3 質問紙調査の結果概要

○児童生徒質問紙調査

- ・質問項目数は、小中学校ともに 69 項目であり、昨年度と同数であった。
- ・学校での ICT 機器の活用頻度を尋ねる項目が細分化され、具体的な場面ごとに尋ねられている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業期間中のことを尋ねる項目は削除された。

○学校質問紙調査

- ・質問項目数は、小学校 85 項目（昨年度より 17 項目減）、中学校 83 項目（昨年度より 19 項目減）となった。
- ・小中学校ともに新型コロナウイルス感染症の影響を調査するための質問項目が 3 項目あった。

(1) 「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」における 3 つの視点の指標項目等

質問項目に対して、4 つの選択肢の中から肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「よく行った」、「どちらかといえば行った」等）を選択した割合（%）を示した。

① 視点 1 「学びを実感できる授業づくり」

質問項目	校種		R3 調査	R4 調査	前回調査との比較
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	76.6	76.5	-0.1
		全国	78.2	77.3	-0.9
	中	本県	80.7	77.1	-3.6
		全国	81.0	79.2	-1.8
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	62.0	65.0	+3.0
		全国	63.5	65.4	+1.9
	中	本県	58.0	58.0	0.0
		全国	62.0	63.3	+1.3
5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。 [児童生徒質問紙] *1	小	本県	12.7	26.4	+13.7
		全国	11.2	26.7	+15.5
	中	本県	10.8	23.2	+12.4
		全国	7.4	21.6	+14.2
あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか。 [学校質問紙] *1 *2	小	本県		57.1	
		全国		58.2	
	中	本県		53.5	
		全国		55.5	

*1 ICT 機器の使用に関する質問項目は、「ほぼ毎日」を選択した割合を示した。

*2 R3 調査の欄に斜線が入っている質問項目は、令和3年度に実施されていない。

② 視点2 「学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり」

質問項目	校種		R3調査	R4調査	前回調査との比較
将来の夢や目標を持っていますか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	78.5	77.4	-1.1
		全国	80.3	79.8	-0.5
	中	本県	65.0	64.1	-0.9
		全国	68.6	67.3	-1.3
学級の友達との間／生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	78.9	80.0	+1.1
		全国	78.8	80.1	+1.3
	中	本県	76.6	76.8	+0.2
		全国	77.8	78.7	+0.9
人が困っているときは、進んで助けていますか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	89.0	89.0	0.0
		全国	88.7	88.9	+0.2
	中	本県	87.4	87.1	-0.3
		全国	88.5	88.4	-0.1
学校生活の中で、児童〔生徒〕一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。 [学校質問紙]	小	本県	99.5	99.1	-0.4
		全国	98.7	98.7	0.0
	中	本県	98.0	99.0	+1.0
		全国	98.6	98.1	-0.5

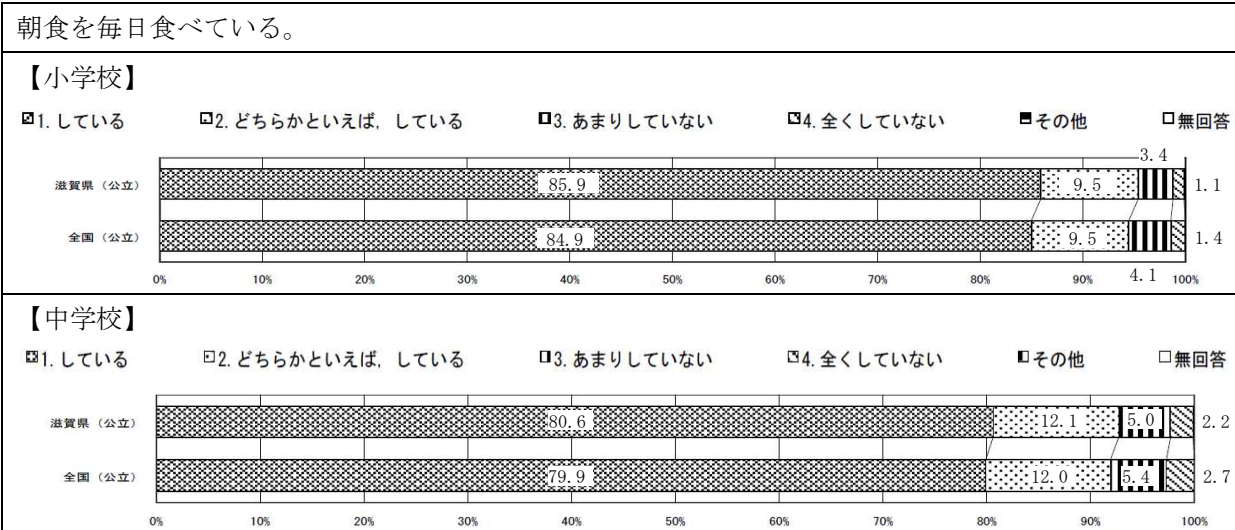
③ 視点3 「子どものために一丸となって取り組む学校づくり」

質問項目	校種		R3調査	R4調査	前回調査との比較
児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行いましたか。[学校質問紙]	小	本県	85.5	85.9	+0.4
		全国	82.4	83.6	+1.2
	中	本県	77.4	72.7	-4.7
		全国	77.7	78.6	+0.9
前年度までに、近隣等の小/中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。[学校質問紙]	小	本県	50.0	42.0	-8.0
		全国	59.1	52.7	-6.4
	中	本県	54.9	49.5	-5.4
		全国	65.0	61.1	-3.9
保護者に対して児童〔生徒〕の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。 [学校質問紙] *2	小	本県		91.3	
		全国		92.4	
	中	本県		79.8	
		全国		86.7	

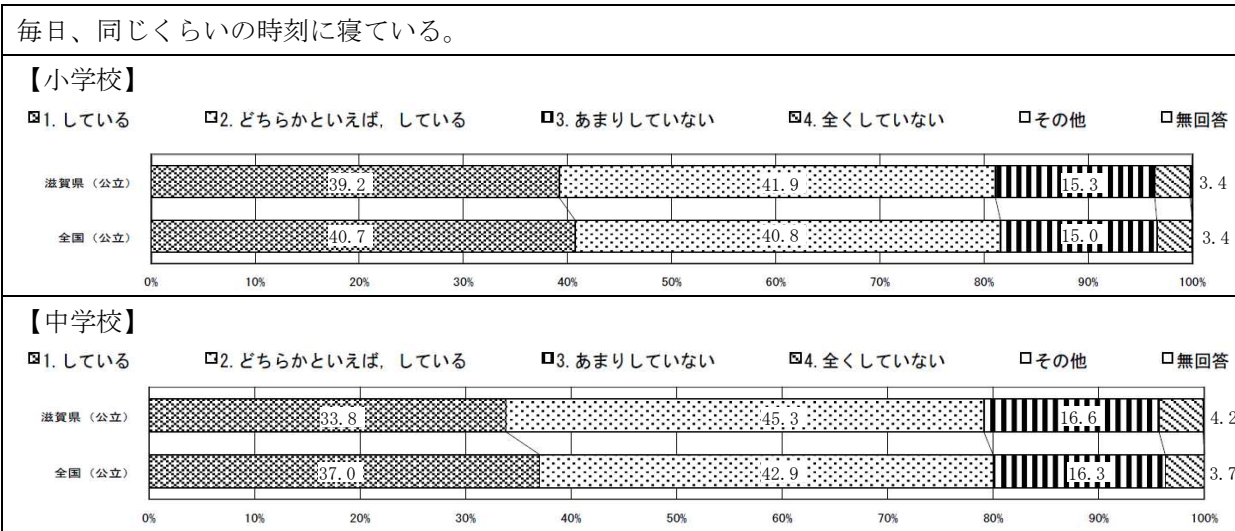
*2 R3調査の欄に斜線が入っている質問項目は、令和3年度に実施されていない。

(2) 児童生徒の基本的な生活習慣および学習習慣に関する質問項目 (児童生徒質問紙)

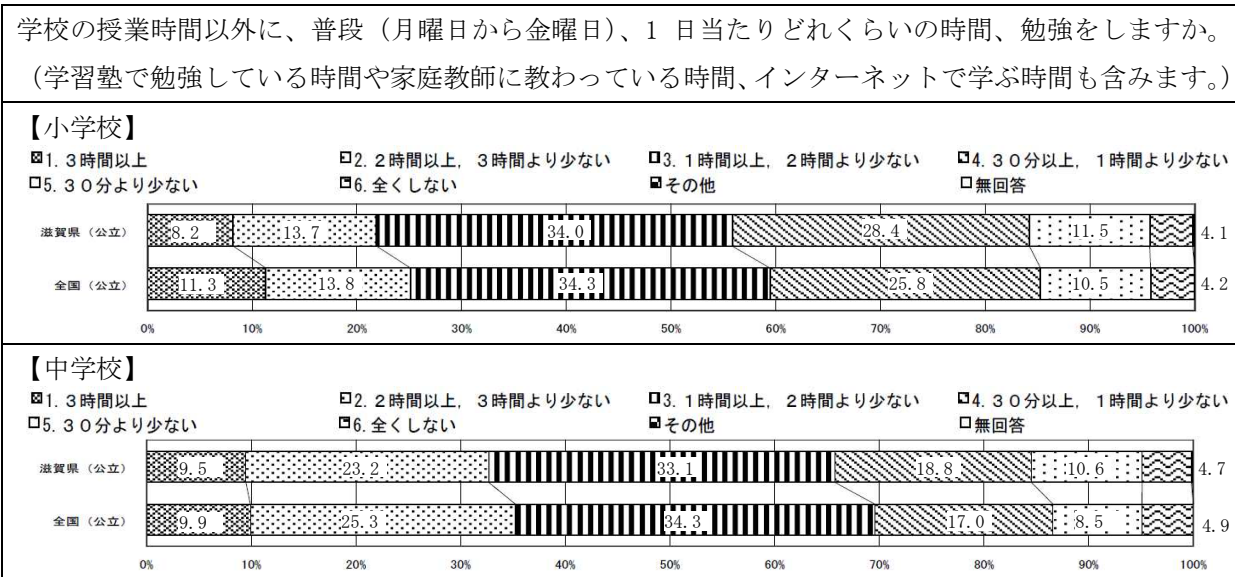
○朝食の摂取



○就寝時刻

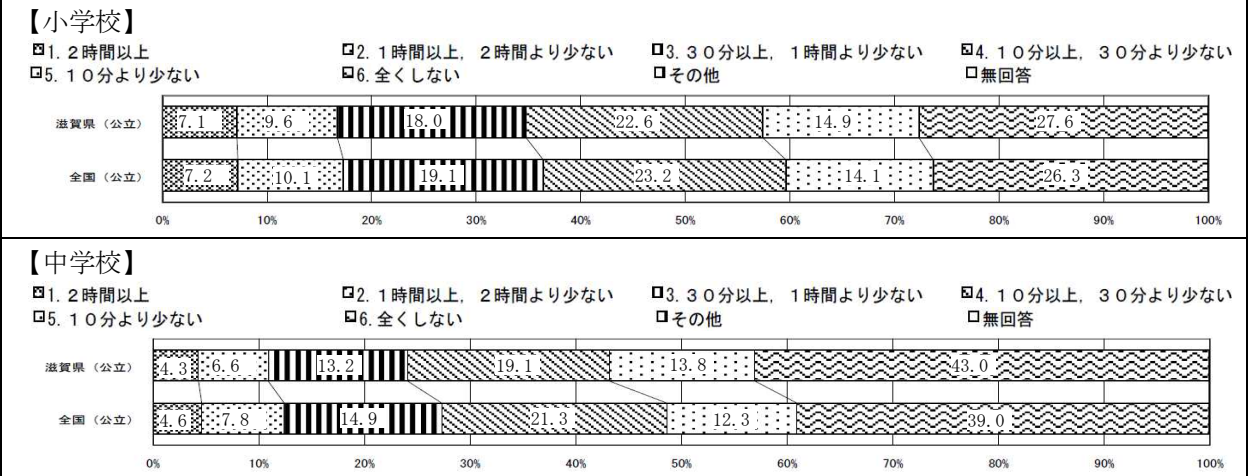


○家庭学習の時間



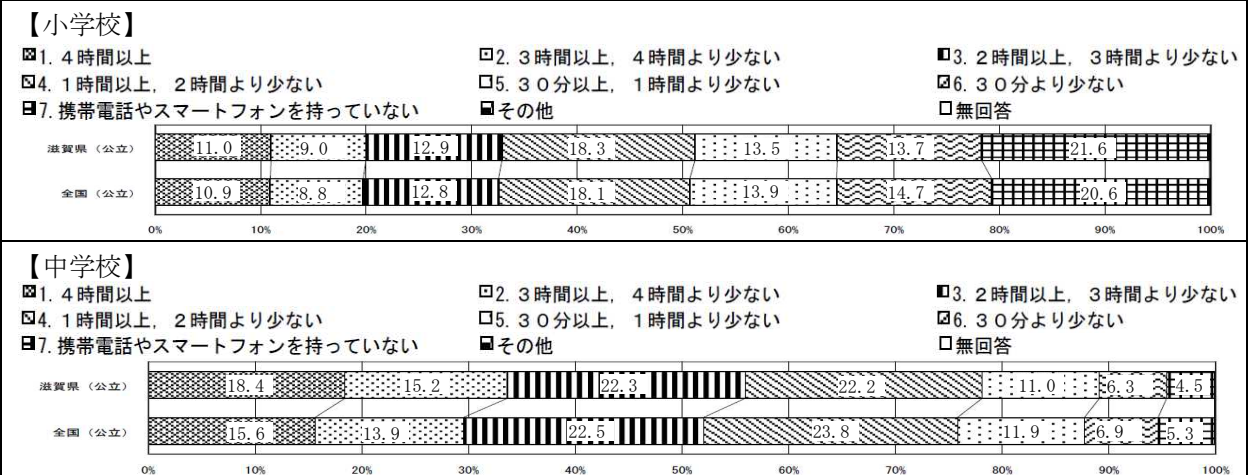
○読書の時間

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

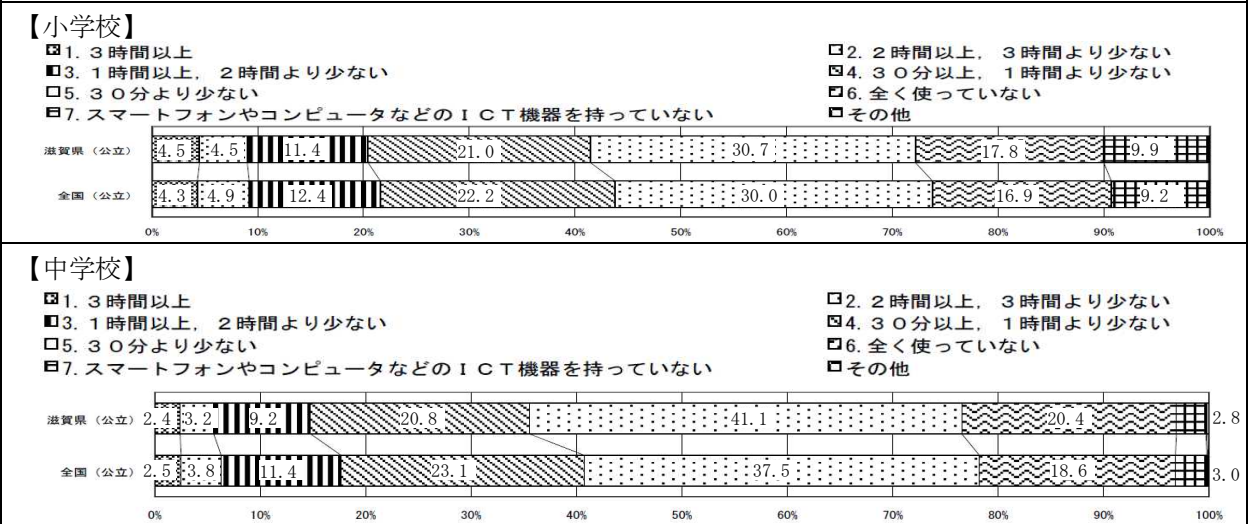


○ICT 機器の使用時間

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます)。



普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか。



(3) 新型コロナウイルス感染症拡大前と現在との比較（児童生徒質問紙）

児童生徒質問紙の項目から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が考えられる項目を抽出し、選択肢の中から肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「よく行った」、「どちらかといえば行った」等）を選択した割合（％）を示した。

○自分自身に関すること

質問項目	校種		H31(R1)調査	R3調査	R4調査	H31(R1)との比較
自分には、よいところがあると思いますか。	小	本県	81.5	77.2	78.8	-2.7
		全国	81.2	76.9	79.3	-1.9
	中	本県	71.2	74.3	76.2	+5.0
		全国	74.1	76.2	78.5	+4.4
将来の夢や目標を持っていますか。	小	本県	82.5	78.5	77.4	-5.1
		全国	83.8	80.3	79.8	-4.0
	中	本県	66.2	65.0	64.1	-2.1
		全国	70.5	68.6	67.3	-3.2
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	小	本県	79.8	71.0	72.5	-7.3
		全国	79.0	70.9	72.5	-6.5
	中	本県	69.6	65.9	66.9	-2.7
		全国	70.3	65.9	67.1	-3.2
人が困っているときは、進んで助けていますか。	小	本県	87.5	89.0	89.0	+1.5
		全国	87.9	88.7	88.9	+1.0
	中	本県	83.7	87.4	87.1	+3.4
		全国	85.9	88.5	88.4	+2.5

○学校生活に関すること

質問項目	校種		H31(R1)調査	R3調査	R4調査	H31(R1)との比較
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 *令和3年度は本質問項目はなし	小	本県	84.0		86.4	+2.4
		全国	86.1		87.1	+1.0
	中	本県	78.5		85.1	+6.6
		全国	81.5		86.6	+5.1
学校に行くのは楽しいと思いますか。	小	本県	86.0	83.2	86.0	0.0
		全国	85.8	83.4	85.4	-0.4
	中	本県	81.7	81.9	82.3	+0.6
		全国	81.9	81.1	82.9	+1.0
5年生(1,2年生)のときに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用しましたか。 *週1回以上と回答した割合	小	本県	33.2	36.7	82.0	+48.8
		全国	30.6	40.1	83.2	+52.6
	中	本県	37.3	38.1	80.3	+43.0
		全国	30.6	33.4	80.6	+50.0

○家庭、地域での生活に関すること

質問項目	校種		H31(R1)調査	R3調査	R4調査	H31(R1)との比較
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	小	本県	71.2	73.2	70.5	-0.7
		全国	71.5	74.0	71.1	-0.4
	中	本県	49.4	63.7	58.1	+8.7
		全国	50.4	63.5	58.5	+8.1
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり、どのくらいの時間、勉強をしますか。 *1時間以上と回答した割合	小	本県	64.9	60.4	55.9	-9.0
		全国	66.1	62.5	59.4	-6.7
	中	本県	66.4	74.4	65.8	-0.6
		全国	69.8	75.9	69.5	-0.3
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり、どのくらいの時間、読書をしますか。 *30分以上と回答した割合	小	本県	37.1	35.3	34.7	-2.4
		全国	39.8	37.4	36.4	-3.4
	中	本県	22.3	24.4	24.1	+1.8
		全国	27.0	28.9	27.3	+0.3
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	小	本県	77.2	67.7	63.6	-13.6
		全国	68.0	58.1	52.7	-15.3
	中	本県	58.7	51.3	49.1	-9.6
		全国	50.6	43.7	40.0	-10.6

全国学力・学習状況調査の結果をうけた今後の取組

1 分析資料（「課題の改善に向けた取組の重点」）の活用

今回の調査結果について小中学校ごとに分析して課題を明らかにし、校種ごとに改善点を焦点化した取組事項を「課題の改善に向けた取組の重点」として示す。

（資料の内容）

- ・各教科の「課題の改善に向けた取組」の例

教科ごとの授業改善例を示し、2学期以降の指導に生かす。

- ・分析資料の活用方法

解答状況整理表（S-P表）等の学力調査分析資料とその活用方法を示し、各学校が課題を焦点化し、重点的に指導すべき点を明確にできるようにする。

2 市町教育委員会への取組

市町教育委員会の担当者と、県全体の課題を共有するとともに、調査結果を踏まえた各市町、学校の課題を明確にし、対策について検討を行う。

（日程）

8/5（金）本県の調査結果とそれを踏まえた今後の取組について（説明）

※ Web会議で実施

8/30（火）各市町の調査結果とそれを踏まえた今後の取組について（協議）

3 小中学校への取組

- ・「我が校の学ぶ力向上策（今後の取組方針および計画）」の検証・改善

各学校において、今年度の調査結果を受けて、「我が校の学ぶ力向上策（今後の取組方針および計画）」の検証・改善を促す。

（9月中旬までに、県教育委員会へ報告）

- ・全小中学校への学校訪問による取組の指導助言

各学校から報告された「我が校の学ぶ力向上策」とその検証・改善の中間報告の内容を確認し、2学期以降の学校訪問において指導助言を行う。

また、引き続き「読み解く力」の育成を図り、子どもが得た情報をもとに、自分の考えと比較しながら修正し、説明できる力を育てる。

- ・「学びの基礎チャレンジ（県独自調査）」と「学びのアンケート」の実施

調査結果から、教員が子ども一人ひとりの学習状況等を把握し、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着を図る。

- ・「一人ひとりの学び最適化プロジェクト」の成果の共有

「学ぶ力検証モデル事業（R3年度～）」や「学びのステップアップ調査CBT化事業（R4年度～）」において、「個別最適な学び」につながる取組を行い、子どもの確かな学力の向上につなげる。

- ・家庭学習の充実に向けた取組

各市町の課題と現状に合った取組について、県が家庭学習の充実につながる取組例等を示し、指導する。また、さらなる効果的な取組とするため、他部局とも連携しながら支援を進めていく。

- ・読書活動の充実に向けた取組

教員向けに、学校図書館を活用した授業づくりや読書活動の充実に向けた取組を紹介し、各学校で読書活動の活性化を図られるよう指導を行う。また、学校図書館司書と連携した図書室の効果的な活用を進めていく。